

JGSS-2003 ネットワークモジュールに向けて 予備調査の結果報告

中尾 啓子

池田 謙一

安野 智子

(東京都立大学人文学部)(東京大学大学院人文社会系研究科)(中央大学文学部)

Implementing a Social Networks Module in the Japanese General Social Surveys (JGSS):
Results of the Pre-test

Keiko NAKAO, Ken'ichi IKEDA, and Satoko YASUNO

The project of Japanese General Social Surveys (JGSS) plans to implement a module design in the 2003 survey. "Social networks" was chosen for the theme for the 2003 module and a preliminary questionnaire was constructed. The questionnaire attempts to obtain information about three different types of social networks each respondent is a part of. Respondents will be asked to name up to four people with whom (1) they confide in, (2) they discuss political issues, and (3) they talk about their work. Although challenging, asking about multiple types of networks was judged to be a unique and worthwhile effort. It would not only allow researchers in various areas to utilize the data once collected, but it would also enable them to elicit valuable information about network overlaps, which has never been collected in any other survey of this kind.

The questionnaire was tested in a preliminary survey to find out whether the respondents, especially older individuals, are able to follow the instructions and answer all the questions. This paper reports the results of the pre-test, and discusses the applicability of this questionnaire design.

Key words: Module, Social Networks, Pre-test

2003年度のJGSS調査では、その設計にモジュール導入を予定している。社会的ネットワークをモジュールのテーマと設定し、現在、モジュール留置調査票の作成が進行している。この調査票には、個人が保有する3種類の社会的ネットワーク(相談をする相手、政治について話し合う相手、仕事のことについて話す相手)に関する質問項目が含められ、回答者にはそれぞれについて4人まで挙げてもらう。複数のネットワークに関する情報収集を目的とするのは新しい試みであり、重複するネットワークについての貴重なデータを捉えられる画期的な設計といえよう。このような調査票の採用可能性を検討するために、予備調査が実施された。本稿では、2002年10月に行われた予備調査の結果を報告する。

キーワード：モジュール、社会的ネットワーク、予備調査

1. はじめに

JGSS では、2003 年度調査において、モジュールを導入した調査設計を採用することを計画している。モジュールは、継続的調査において特定の時期に行われる調査の一部を、ある特定のテーマに基づいた調査項目に割り当てることによってそのテーマに関する詳細な情報を収集することを目的とするもので、アメリカの GSS、ISSP など、他国の継続的総合社会調査においても広く採用されている。JGSS も含めてこれらの調査はすべて、継続的に同じ質問項目を含めることによって時系列分析が可能であることを特色のひとつとしている。したがって、モジュールを組み込むためには、調査の継続性を損なうことなく設計する必要がある。JGSS では、従来の調査をそのまま継続することを重視し、2003 年度においては抽出サンプルを増やすことによってモジュールを設計に組み込むことにした。従来と同じ規模のサンプルを分割するのではなく、増大することで、これまでの継続的調査としての JGSS の特徴を維持しながら、同時にモジュールとして異なったテーマに関する詳細なデータを収集することができる。このような方法でモジュールを導入することによって、より広範囲の研究テーマを網羅することができ、より多くの研究者に利用できることが期待される。

2003 年度は、モジュールのテーマとして「社会的ネットワーク」を取り上げ、実験的にモジュール設計を試行する。JGSS 調査には面接票と留置票があり、双方についてそれぞれの対象者に回答してもらう形式をとっている。したがって、モジュール設計に伴って追加されるサンプルに対しても同じように面接票と留置票を準備し、面接では共通の面接票を用い、留置き票にのみネットワークの質問項目を採用する。

2. ネットワーク調査票の作成にあたって

個人が形成する人間関係、いわゆる社会的ネットワークは、社会科学の広い分野において多くの研究者の関心対象であろう。個人の人間関係を測定する目的で、保有するパーソナルネットワークに焦点をあてた調査研究は近年数多く行われているものの、政治や社会参加に関わるもの以外には、日本において全国規模での組織的な調査はまだ行われたことがない。

アメリカの実証研究においては、個人のパーソナルネットワーク（または社会的ネットワーク）は、特に 1970 年代後半から注目されてきた。そしてそれらの研究には、研究対象あるいは目的によって異なるパーソナルネットワークの情報を収集するために、様々な調査方法が用いられてきた。中でも個人にパーソナルネットワークを特定化してもらう手法としてもっとも一般的なのが、ある具体的な関係を設定し、その関係にある人々の名前を挙げてもらう方法である（たとえば McAllister and Fisher, 1978; Wellman, 1979 など）。この方法による質問項目は、1985 年の GSS におけるモジュールとしても採用されており、標準化された調査票をもとにパーソナルネットワークに関する情報を収集する方法として、

後の実証研究の基盤となった (Burt, 1984)。1985年 GSS 調査が対象としたのは、個人がよく話しをする関係にある社会的ネットワーク (Discussion Network) で、「この6ヶ月において、重要なことについて話をした人々」という設定のもとに、回答者に5人まであげてもらい、それぞれの属性、回答者との関係、そして5人 (あるいはそれ以下) 同士の関係について質問している。ネットワークを構成する人々同士の関係についての質問を含めることで、回答者が保有するネットワークの構造上の性質 (たとえば密度や開放性) を把握できることが、この調査データの特徴といえよう (Marsden, 1987)。一方、この調査では「重要なことについて話をする」他者から構成されるネットワークのみが対象となることから、個人の社会的ネットワークの一部しか捉えられないこと、そしてその他の人間関係との関連性も把握できないという限界がある。

日本の実証研究においても、基本的には上記のような方法が広く用いられてきた。ネットワークの種類あるいはネットワーク他者についてどのような情報を収集するかは研究分野や対象によって異なるものの、特定の人間関係を指定して、そのような関係にある他者を挙げてもらう方法が一般的である (大谷, 1995; 松本, 1995, 1999; 渡辺, 1998; 森岡, 2000; 飽戸, 2000; 池田, 1997, 2000, 2002; Ikeda & Huckfeldt, 2001; Liu, Ikeda, & Wilson, 1998; 石黒, 1998; 安野, 2001 など)。そこで、JGSS ネットワークモジュールにおいても基本的には上記のような GSS 形式を採用し、さらに広範囲の研究分野に応用できるように、複数の種類の社会的ネットワークについての調査を試みることにした⁽¹⁾。

まず、どのようなネットワークについて多くの研究者が注目しているかを把握するために、日本社会学会、JIL、SSCI などのデータベースを用いて、社会的ネットワークを研究テーマとして扱っている文献検索をした。その結果、研究対象とされているネットワークのうち、サポート (悩みを相談する他者) 政治 (政治の話をする他者) 仕事 (仕事について相談する他者) の3種類がもっとも多く取り上げられていることがわかった。この結果に基づき、以下のようなワーディングを用いて3種類のネットワークを特定化することにした。

- ・サポートネットワーク : 「重要なことを話したり、悩みを相談する人々」
- ・政治ネットワーク : 「日本の首相や政治家のことについて話し合う人々」
- ・仕事ネットワーク : 「仕事について相談したり、仕事上のアドバイスをもらう人々」

回答者には、3種類のネットワークそれぞれについて4人まで挙げてもらい、挙げられたネットワーク他者についての属性や関係などを答えてもらう形式をとる⁽²⁾。このように個人の複数のネットワークについての情報を収集することによって、それぞれの種類のネットワークに関する分析ができることから、より多くの研究者の関心対象となり得る。さらに複数ネットワークについての情報収集に伴う最大の利点は、異なる種類のネットワーク同士がどの程度重複しているかという点を把握できることにあるだろう。ネットワーク同士の重複は、広範囲にわたる個人のネットワークの構造的特性を明らかにするために極

めて重要な情報を提供する。これまでの大規模な調査において、このような重複ネットワークに関する情報収集を目的としたものはなく、今回の試みは画期的な調査設計といえよう。

しかし、1回の調査において複数の関係にある他者をそれぞれ挙げてもらうという形式をとる場合、回答者にかかる負担が大きくなるだけでなく、同一人物が複数のネットワーク他者（ネットワーク構成員）として何回も挙げられることによる回答の信頼性に纏わる問題が、当然予想される。したがってJGSSでは、小規模な予備調査を数回繰り返した上で、回答可能と考えられる留置調査票を作成し、実際に調査場面を再現するような予備調査の実施にあたった。以下では、その予備調査の結果を検討していく（調査票は章末Appendix1に提示）。

3. 予備調査の目的

今回の予備調査の目的は、3種類のネットワーク（相談、政治、仕事）についてたずねる留置質問票を用いた場合、調査対象者、特に高齢者が提示された質問に回答できるかどうかを検討することである。3ネットワークについての質問票の第1案は、2002年の7月に大阪商業大学の学生の協力を得て行われた予備調査によって、その可能性が検討された。結果、複数のネットワークに重複して挙げられた他者についての情報に不一致が多く（40%強）みられたため、今回はその点について改善された調査票を用いて、再度予備調査を行うこととなった。主な改善点は、それぞれのネットワーク他者についての質問項目を同一にし、重複する他者については2度答えてもらわなくてよいようにしたことである。しかし改良版の調査票においても、3種類のネットワークについてそれぞれ4人ずつ挙げてもらうため、回答者の負担が大きくなることが懸念される。また、重複がある場合は回答形式が複雑になるため、特に高齢者が自記式の質問票を用いてそれらの質問に一貫した回答ができるかどうか不明である。したがって今回の予備調査では、それら2点の検討に焦点を絞った。具体的には、(1)すべての質問に答えてもらえるかどうかの確認、そして(2)特に高齢者が自記式の質問票を用いて重複したネットワーク他者に関する質問に一貫した回答ができるかどうかを検討することを目的とした。

4. 予備調査概要

以上のような調査目的から、今回は40歳以上89歳以下の高年齢層を対象にし、男女それぞれ40歳代から80歳代まで10歳ごとの各カテゴリーについて10人ずつ対象者を選ぶ（計100人）という割り当てサンプルを用いた。実査は2002年10月31日から11月13日まで、東京都23区内10地点において遂行された。10地点の選択はまず23区から無作為に10区を、そしてそれぞれの区内において1地域を無作為に選択した。各調査地区内では、任意の訪問先から始めて10件ごとに訪問するという、いわゆるランダムウォーク形式

で行われたが、調査員への指示として、集合住宅については1建物について1件までという制約をつけた。調査員は委託調査会社と契約のある女性調査員(40・50歳代がほとんど)10人である。謝礼は500円の図書券を調査票回収時に手渡しする方式を採用したが、謝礼の有無と額については、対象者に調査を依頼する時に説明した。また、調査対象者には調査票と共に、学術調査目的であることなどを記載した調査依頼状を配布した。

5. 分析結果

5.1 無回答について

今回の予備調査に用いた調査票には、JGSS 2000 留置票の質問項目も含めてある。無回答率を比較するために、双方の調査に共通する質問項目について、それぞれの回答状況と記述統計を表1にまとめた(JGSS 2000 データでは、40歳以上のみを分析)。表1によると、これらの35の質問について、平均無回答率はJGSS 2000で1.5%、予備調査で2.3%と、今回の予備調査の方がやや高い。予備調査において特に無回答が多かったのは、組織の所属に関する7項目であった。これらの質問については、それぞれの組織に所属していない場合に、「いいえ」と答えるかわりに無記入というケースがあることは考えられる。他の項目についての無回答率については、JGSS 2000と予備調査では大きな乖離がみられないことから、今回の調査票自体が無回答率を上昇させる原因となっているとは、必ずしもいえないだろう。また、回答の平均値・標準偏差に関しても、回答傾向は両調査で顕著に異なることはない。

ネットワークに関する質問項目についての無回答率は、表2・表3に提示した。ネットワークに挙げられた人々(ネットワーク他者)の属性については、平均無回答率が1.8%、ネットワーク他者同士の関係については、平均が3.8%であった。ネットワーク他者の属性については、特に無回答の傾向が強いという事実はみられない。ネットワーク他者同士の相互関係については、挙げてもらった順序と無回答率の関連をみると、第1番目に挙げられた他者との相互関係については無回答率が低いことがわかる。より親しい人が先に挙げられていることを前提とすると、後に挙げられた他者同士についての情報を把握していないという可能性も考えられるだろう。

表 1：無回答率

質問項目	JGSS 2000(40歳以上)				ネットワーク予備調査			
	度数	無回答率	平均値	標準偏差	度数	無回答率	平均値	標準偏差
2～3年の経済状態	2076	0.004	2.48	0.57	100	0.000	2.49	0.56
生活水準の向上機会	2041	0.021	3.33	0.92	100	0.000	3.55	0.89
住んでいる地域の満足度	2066	0.009	2.37	1.05	99	0.010	1.89	0.90
余暇の過ごし方の満足度	2056	0.013	2.65	1.04	99	0.010	2.26	1.02
家庭生活の満足度	2057	0.013	2.46	0.98	100	0.000	2.08	0.90
現在の家計の状態の満足度	2053	0.015	2.97	1.07	100	0.000	2.86	1.04
友人関係の満足度	2055	0.014	2.41	0.99	100	0.000	2.22	0.91
健康状態の満足度	2064	0.010	2.73	1.10	100	0.000	2.53	1.03
現在の健康状態	2080	0.002	2.68	1.17	99	0.010	2.45	1.13
社会階層	2060	0.012	3.33	0.77	97	0.030	3.30	0.84
家族そろった夕食	2068	0.008	2.03	1.66	97	0.030	2.30	1.92
友人との会食や集まり	2064	0.010	4.68	1.33	100	0.000	4.32	1.41
夕食の用意	2065	0.009	3.06	2.50	98	0.020	3.24	2.56
洗濯	2067	0.008	3.10	2.48	95	0.050	3.36	2.37
買い物	2069	0.007	2.78	1.84	98	0.020	2.88	1.98
家の掃除	2077	0.003	2.89	1.99	99	0.010	2.97	2.05
市民には政府を左右する力はない	2021	0.030	2.29	0.98	97	0.030	1.91	0.85
政治や政府は複雑でよく理解できない	2017	0.032	2.17	0.94	99	0.010	1.89	0.75
自分一人くらい投票しなくてもかまわない	2039	0.022	3.49	0.76	99	0.010	3.09	0.94
組織への所属：政治関係の団体や会	2067	0.008	1.95	0.22	94	0.060	1.98	0.15
組織への所属：業界団体・同業者団体	2061	0.011	1.90	0.30	94	0.060	1.98	0.15
組織への所属：ボランティアのグループ	2064	0.010	1.90	0.30	93	0.070	1.91	0.28
組織への所属：市民運動・消費者運動のグループ	2059	0.012	1.96	0.18	94	0.060	1.97	0.18
組織への所属：宗教の団体や会	2066	0.009	1.92	0.27	95	0.050	1.89	0.31
組織への所属：スポーツ関係のグループのやクラブ	2066	0.009	1.84	0.37	95	0.050	1.81	0.39
組織への所属：趣味の会	1977	0.051	1.84	0.37	97	0.030	1.77	0.42
夫に十分な収入があれば、妻は仕事をもたない方がよい	2061	0.011	2.37	0.97	98	0.020	2.32	0.90
女性の幸福は結婚にある	2048	0.017	2.15	0.86	98	0.020	2.36	0.84
男性も身の回りのことや炊事をすべきだ	2066	0.009	1.75	0.72	100	0.000	1.85	0.61
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	2059	0.012	2.36	0.90	97	0.030	2.23	0.77
男性の幸福は結婚にある	2034	0.024	2.08	0.83	99	0.010	2.33	0.83
母親の仕事は入学前の子どもによくない影響を与える	2048	0.017	2.38	0.90	97	0.030	2.05	0.80
結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	2053	0.015	2.86	0.94	98	0.020	2.72	0.88
妻は夫の仕事の手助けをする方が大切	2042	0.020	2.43	0.89	98	0.020	2.35	0.84
政治的な考え方	2009	0.036	2.82	0.93	97	0.030	4.27	1.28
平均値		0.015				0.023		

表2：ネットワーク個別質問の無回答率（全体平均=0.018）

ネットワーク	質問項目	一番目	二番目	三番目	四番目	平均
相談	性別	0.012	0.039	0.034	0.000	0.021
	年齢	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	接触期間	0.012	0.026	0.017	0.041	0.024
	接触頻度	0.000	0.013	0.000	0.020	0.008
	学歴	0.012	0.000	0.000	0.000	0.003
	従業形態	0.012	0.000	0.000	0.000	0.003
	仕事	0.012	0.000	0.000	0.041	0.013
	役職	0.024	0.026	0.034	0.041	0.031
	親密さ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	政治話題	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	支持政党	0.012	0.000	0.000	0.000	0.003
	平均	0.009	0.009	0.008	0.013	0.010
政治	性別	0.036	0.020	0.024	0.056	0.034
	年齢	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	接触期間	0.018	0.000	0.000	0.000	0.004
	接触頻度	0.000	0.000	0.000	0.056	0.014
	学歴	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	従業形態	0.018	0.020	0.000	0.000	0.009
	仕事	0.054	0.040	0.048	0.056	0.049
	役職	0.036	0.040	0.048	0.056	0.045
	親密さ	0.036	0.020	0.024	0.028	0.027
	政治話題	0.036	0.020	0.024	0.028	0.027
	支持政党	0.036	0.040	0.048	0.056	0.045
	平均	0.024	0.018	0.019	0.030	0.023
仕事	性別	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	年齢	0.032	0.037	0.000	0.059	0.032
	接触期間	0.032	0.000	0.043	0.000	0.019
	接触頻度	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	学歴	0.032	0.000	0.000	0.000	0.008
	従業形態	0.097	0.074	0.043	0.059	0.068
	仕事	0.000	0.037	0.043	0.059	0.035
	役職	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	親密さ	0.000	0.037	0.000	0.059	0.024
	政治話題	0.032	0.037	0.043	0.059	0.043
	支持政党	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	平均	0.021	0.020	0.016	0.027	0.021

表3：ネットワーク相互関係質問についての無回答率

	1-2	1-3	1-4	2-3	2-4	3-4	平均
相談	0.013	0.017	0.041	0.085	0.041	0.061	0.043
政治	0.000	0.000	0.000	0.071	0.139	0.139	0.058
仕事	0.037	0.000	0.000	0.043	0.000	0.000	0.013
平均	0.017	0.006	0.014	0.067	0.060	0.067	0.038

5.2 ネットワークの重複について

まず参考資料として、挙げられたネットワーク他者の総数についての記述統計を表4に、そして重複して挙げられたネットワーク他者の数を表5に提示する。悩みを相談する相手として挙げられたのは平均2.69人、政治のことについて話す相手は平均1.82人、そして仕事についての話をする相手は平均0.98人であった(仕事をしていない人は0人と数えた平均値)。対象者の属性が異なることから他の調査との比較はできないが、これらの数値から、GSS形式のように5人まで挙げてもらう必要はないことが確認された。

表4：ネットワークサイズ

性別		平均値	標準偏差
男性	相談	2.44	1.66
	政治	1.78	1.82
	仕事	1.22	1.64
女性	相談	2.94	1.35
	政治	1.86	1.84
	仕事	0.74	1.51
年代		平均値	標準偏差
40代	相談	2.65	1.46
	政治	1.55	1.70
	仕事	1.40	1.73
50代	相談	2.95	1.47
	政治	1.80	1.96
	仕事	1.45	1.76
60代	相談	2.85	1.63
	政治	2.20	1.85
	仕事	1.25	1.77
70代	相談	2.75	1.52
	政治	2.37	1.77
	仕事	0.35	1.09
80代	相談	2.25	1.59
	政治	1.20	1.74
	仕事	0.45	1.23
合計		平均値	標準偏差
	相談	2.69	1.52
	政治	1.82	1.82
	仕事	0.98	1.59

表5：重複ネットワーク数

相談 - 政治相談

	e	f	g	h
a	31	0	2	1
b	5	14	4	1
c	2	5	13	1
d	0	3	2	12

相談 - 仕事相談

	i	j	k	l
a	9	1	0	2
b	0	7	1	0
c	6	1	2	0
d	0	1	1	1

政治 - 仕事相談

	i	j	k	l
e	11	1	0	1
f	0	4	0	0
g	2	0	4	3
h	0	1	0	0

今回の調査票では、複数のネットワークに該当する他者については、一度しか回答しなくてもよい設計になっている。そこで、重複するネットワークに関する回答エラーとしてまず考えられるのは、調査対象者が質問票に提示されているその指示に従って回答しているかという点である。表6には、同じ他者についても複数回答しているケース（調査票の指示に従っていないエラー）を示した。

表6：重複した他者について2度以上回答したケース

相談 - 政治

	e	f	g	h
a	17	0	2	1
b	4	5	3	1
c	2	4	3	0
d	0	2	2	5

	重複ケース	2度記入	比率
相談 - 政治	38	25	0.658
相談 - 仕事	20	13	0.650
政治 - 仕事	15	9	0.600

相談 - 仕事

	i	j	k	l
a	5	0	0	1
b	0	5	1	0
c	5	0	1	0
d	0	1	1	1

政治 - 仕事

	i	j	k	l
e	7	0	0	1
f	0	3	0	0
g	1	0	2	0
h	0	1	0	2

表6によると、ネットワーク他者が重複するケースの60%以上が、調査票の指示を理解せず、同じ他者について2度以上答えていることがわかった。この点については、指示の仕方を明確にするように調査票を改善しなければいけないだろう。しかし、これらのエラーケースについても、実際に同じ他者を想定して同じ回答が記入されているのであれば問題は少ない。そこでまず、同じ他者を想定して回答されたものかどうかを判断するために、挙げられたネットワーク他者の性別、年齢、接触期間、学歴、そして回答者との関係が一致しているかどうかを調べてみた。(表7参照)

表7：2度記入された回答から見られる不一致エラー

	エラー数					エラー回答者(延べ)		エラー回答者	
	関係	性別	年齢	接触期間	学歴	人数	エラー率	人数	エラー率
相談 - 政治	5	2	3	3	0	8	0.157	4	0.105
相談 - 仕事	3	0	0	2	2	6	0.286	4	0.200
政治 - 仕事	2	0	1	1	0	3	0.176	3	0.200
計	10	2	4	6	2	17	0.191	8	0.174

表7によると、不一致の割合は19.1%である。前回の調査票を用いて大阪商業大学で行われた予備調査の際のエラー率は、関係、性別、年齢、学歴に関する不一致が40.5%。今回の予備調査では接触期間を除く4変数で計算した場合15.7%であるため、エラー率は大幅に減少していることが明らかになった。また、それらのエラーは計8人の回答者によるエラーであり、重複ネットワークがあった回答者の17.4%である。そこで、その8人についての属性をみてみると、表8に示されるように、男性の方が女性より多いが、年齢によって大きな偏りはみられなかった。特に高齢者にエラーが多いという傾向はないようだ。

表8：重複に不一致がみられた回答者の属性

	相談 - 政治		相談 - 仕事		政治 - 仕事		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
40歳代			1		1		1	
50歳代		1	2	1		1	2	1
60歳代					1		1	
70歳代	1	1	1		1		1	1
80歳代		1						1
合計	1	3	4	1	3	1	5	3

なお、表7に記載されたエラーには無回答を含めた不一致も含めてある。したがって、無回答であった属性以外の変数を用いて同一人物であるかどうか判断できるケースも多く含まれている。他の変数を用いて同一人物であると判断できた場合(たとえば関係、性別、年齢、接触期間はすべて一致したが学歴が無回答というケース)を除くと、エラーは3人の回答者(6.5%)によるものであった(77歳男性、51歳男性、60歳男性)。

さらに、表7においてエラーが多くみられたのは、ネットワーク他者との関係についてである。関係については12の選択肢があり、それぞれの間あまり余白を残していない。関係についてのエラーが、12の選択肢のうち番号が1違うというエラーが多かったことから、調査票における選択肢の提示の仕方の問題があると考えられる。

次に、同一人物について同一の回答を答えているかどうかの検討をした。他者の属性以外の回答については、不一致がみられた箇所には偏りが表れた(表9参照)。不一致エラーが顕著に多いのは、それぞれのネットワーク他者と「このところ政治家や選挙・政治についてどのくらい話題になりましたか」という質問についての回答であった。この質問の選択肢は、「ずいぶん話題になった」「ある程度話題になった」「あまり話題にならなかった」の3つであり、不一致エラーはすべて前者2つあるいは後者2つの間で異なった回答があったというケースである。したがって、これらの選択肢をはっきり区別できるように再検討する必要があるだろう。

表9：ネットワーク他者の属性以外の質問項目についての不一致ケース数

	接触頻度	従業形態	仕事	役職	親しさ	政治話題	支持政党	共通行動	計
相談 - 政治	6	4	5	4	0	15	4	7	45
相談 - 仕事	6	3	3	2	3	11	3	7	38
政治 - 仕事	2	3	2	1	0	7	2	0	17
計	14	10	10	7	3	33	9	14	100

これまでの分析は、2種類のネットワークに重複がある場合のケースのみ対象としている。3種類すべてのネットワークに重複するケースは12あったが、そのうちの1ケースだけについて、挙げられたネットワーク他者に不一致がみられた。少ないケース数ではあるが、3種類重複の方が2種類重複よりもエラー率が高いという結果はみられなかった。

6. 予備調査から得られた知見

以上、今回の予備調査の目的に沿って、質問票の検討を試みた。3種類のネットワークについて4人ずつ挙げてもらうという負担の多い調査票であったが、JGSSにおける項目と比較しても、回答率には大きな問題点がみられなかった。したがって、複雑ではあっても、一応質問に答えてくれる可能性は高いことが推測される。

重複ネットワークについては、エラー発生率が低いとは必ずしもいえないだろう。しかし、今回の予備調査から計算された不一致のエラー率には、さまざまな要素が含まれると考える。まず、回答の不一致を把握できたのは、そもそも2度答えなくてよいという調査票の指示を理解していなかった回答者の答えによるものであること。そして、基本属性以外の質問における不一致は、質問項目自体の信頼性の問題も含むということ。それらを考慮してエラー率を解釈する必要があるだろう。

今回の予備調査では、質問項目の提示の仕方についての問題点がいくつか明らかになっ

た。それらについては、改善する必要がある。たとえば、重複するケースについての指示をさらにわかりやすく調査票に提示することは重要な点だろう。面接調査を担当する調査員が、留置調査票を置いてくる際に回答の手順について説明を加えるという改善策も考えられる。また、全体的に質問項目が多いことによる弊害を抑制するために、質問の数を最小限にする努力は必要と考える。さらに、個別の質問項目については、「政治の話をする頻度」をたずねる質問の選択肢についての再検討、ネットワーク他者との関係を記入してもらった質問については、フォーマットの改善、選択肢の再検討などの点である。今後モジュール実施に向けて、これらの点についての改良を重ねた調査票を作成していく。

[注]

- (1) GSS形式のネットワーク調査は、質問項目の量と複雑性から、自記式の調査よりも面接調査が適切であるとされてきたが、日本においては郵送法を用いた既存調査がある（石黒，1998；安野，2001 など）。また、同じ調査票を用いて面接法と郵送法を比較した調査（東京都民対象）の結果からは、回答率に関しては予測される程度の差は見られたものの、回答の質に関してはどちらの方法をとっても有意差がないことがわかっている（中尾 2002）。これらのことから、JGSSでは留置形式で行うことにした。
- (2) GSSでは5人まで挙げてもらっているが、GSSも含めてこれまでの先行研究から、ネットワークサイズの平均値が4人以下であること、また回答者への負担を考慮し、今回の調査では、4人まで挙げてもらうことにした。

[参考文献]

- 鮑戸弘編，2000，「ソーシャル・ネットワークと投票行動」木鐸社。
- Burt, R.S., 1984, "Network Items and the General Social Survey." *Social Networks* 6, 293-339.
- 池田謙一，1997，「転変する政治のリアリティ」木鐸社。
- 池田謙一，2000，「コミュニケーション」(社会科学の理論とモデル5) 東京大学出版会。
- 池田謙一，2002，「2000年衆議院選挙における社会関係資本とコミュニケーション」選挙研究，17, pp.5-18.
- Ikeda, Ken'ichi & Huckfeldt, Robert, 2001, "Political communication and disagreement among citizens in Japan and the United States." *Political Behavior*, 23, pp.23-51.
- 石黒格，1998，「対人環境としてのソーシャル・ネットワークが性役割に関する態度と意見分布の認知に与える影響」『社会心理学研究』第13巻第2号 pp. 112-121.
- Liu, James, Ikeda, Ken'ichi & Wilson, Mark, 1998, "Interpersonal environment effects on political preferences: The 'middle path' for conceptualizing social structure in New Zealand and Japan." *Political Behavior*, 20, pp.183-212.

- Marsden, Peter V., 1987, "Core Discussion Networks of Americans (Research Note)." *American Sociological Review*, 52, pp.122-131.
- 松本康編, 1995, 「増殖するネットワーク」勁草書房.
- 松本康, 1999, 「年齢と社会構造 - 95年名古屋調査データによる分析 - 」名古屋大学社会学論集第20号.
- McAllister, L. and C.S. Fischer, 1978, "A Procedure for Surveying Personal Networks." *Sociological Methods and Research* 9, 267-285.
- 森岡清志編, 2000, 「都市社会のパーソナルネットワーク」東京大学出版会.
- 中尾啓子, 2002, 「郵送調査と面接調査の比較 パーソナルネットワークに関する質問項目について」森岡清志編, 『パーソナルネットワークの構造と変容』都市研叢書. pp. 197-223.
- 大谷信介, 1995, 「現代都市住民のパーソナル・ネットワーク」ミネルヴァ書房.
- 渡辺 深, 1998, 「高学歴女性のパーソナルネットワーク(1)高学歴女性のパーソナルネットワークの調査概要」第71回 日本社会学会大会報告要旨.
- Wellman, B., 1979, "The Community Question: The Intimate Networks of East Yonkers." *American Journal of Sociology* 84, 1201-1231.
- 安野智子, 2001, 「重層的な世論過程：世論変化の許容範囲モデル」『選挙研究』第16号 pp. 89-113.

[謝辞]

今回の予備調査の実施にあたっては星敦士氏、そしてデータ入力と分析段階では石田光規氏にご協力いただきました。ここに記して感謝いたします。

Appendix 1: 予備調査に用いた調査票・依頼状・メモ用紙

職業と生活意識に関する調査

[留め置き調査票]

- この調査は、文部科学省からの研究助成を得て、現代の社会や人びとの考え方についてさまざまな分野から研究するための学術調査です。どうかご協力をお願い申し上げます。
- 調査の対象としているのは、東京都内にお住まいの男女の方々です。あなたご自身も含めてこの度調査への御協力をお願いする方々は、すべて無作為に選ばせていただきました。
- この調査は純粋に学術研究のために行うもので、ご回答は極秘情報として管理し、結果はすべて統計的に処理しますので、個人のお名前が出たりしてご迷惑をおかけすることは決してありません。ご安心のうえ、どうか率直にありのままをお答え下さい。
- どうしても答えたくない個所は「ノーコメント」などとお書きくださって構いません。しかしながら、多角的な研究のために、何とぞ極力ご回答をお願いします。
- この調査票は、お預けしてご本人様に記入（留め置き記入）していただきます。お忙しいところ恐縮ですが何とぞよろしく申し上げます。

回 答 に つ い て

- ・ご記入は、鉛筆または黒や青のボールペンなどをお願いします。
- ・質問番号順にお答えください。
- ・お答えは、回答番号に○印をつけてください。
- ・「その他」にあてはまる場合は、() に具体的にご記入ください。
- ・ご記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかどうかお確かめ願います。

ご回答いただきました調査票は

が 1 1 月 日 に

いただきにうかがいます。それまでにご回答くださいますようお願い申し上げます。

2002年10月

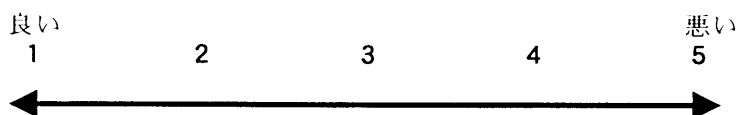
調査企画 : 「職業と生活意識に関する社会調査」調査研究代表者
東京都立大学人文学部社会学科 助教授 中尾啓子

対象者番号	性 別	年 齢
	1.男性 2.女性	歳

※調査票の記入を始めた時間をお書き下さい。

1.午前 2.午後	時	分
-----------	---	---

問1 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。



問2 あなたは、どのくらいの頻度で次のことをしていますか。

	ほとんど毎日	週に数回	週に1回程度	月に1回程度	年に数回	年に1回程度	全くなし
A 家族そろった夕食	1	2	3	4	5	6	7
B 友人との会食や集まり	1	2	3	4	5	6	7
C 夕食の用意	1	2	3	4	5	6	7
D 洗濯	1	2	3	4	5	6	7
E 買い物(日用品や食料品の買い物)	1	2	3	4	5	6	7
F 家の掃除	1	2	3	4	5	6	7
G ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7

問3 この2～3年の間に、あなたの経済状態はどう変わりましたか。

- 1 良くなった 2 悪くなった 3 変わらない

問4 今の日本の社会には、あなたやあなたの家族の生活水準を向上させる機会が、どのくらいありますか。

- 1 充分にある 2 少しはある 3 どちらともいえない 4 あまりない 5 全くない

問5 生活面に関する以下の項目について、あなたはどのくらい満足していますか。

(回答例)
○○○○○○○○

	1	2	3	4	5
A 住んでいる地域	1	2	3	4	5
B 余暇の過ごし方	1	2	3	4	5
C 家庭生活	1	2	3	4	5
D 現在の家計の状態	1	2	3	4	5
E 友人関係	1	2	3	4	5
F 健康状態	1	2	3	4	5

問6 あなたは、家族を介護(1ヶ月以上)したことがありますか。

- 1 したことがない
2 現在行なっている
3 過去に行なったことがある

問 7 次の A~I の意見について、あなたは賛成ですか、反対ですか。

	賛 成	どちらかと いえば賛成	どちらかと いえば反対	反 対
A 結婚しても、相手に満足できないときは いつでも離婚すればよい →	1	2	3	4
B 夫に十分な収入がある場合には、 妻は仕事をもたない方がよい →	1	2	3	4
C なんとんでも女性の幸福は結婚にある →	1	2	3	4
D 男性も身の回りのことや炊事をすべきだ →	1	2	3	4
E 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ →	1	2	3	4
F なんとんでも男性の幸福は結婚にある →	1	2	3	4
G 母親が仕事をもつと、小学校へあがる前の 子どもによく影響をあたえる →	1	2	3	4
H 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない →	1	2	3	4
I 妻にとっては、自分の仕事をもつよりも、 夫の仕事の手助けをする方が大切である →	1	2	3	4

問 8 かりに現在の日本の社会全体を、以下の 5 つの層にわけるとすれば、あなた自身は、どれに入ると
思いますか。

1	2	3	4	5
上	中の上	中の中	中の下	下

問 9 あなたは、次にあげる会や組織に入っていますか。

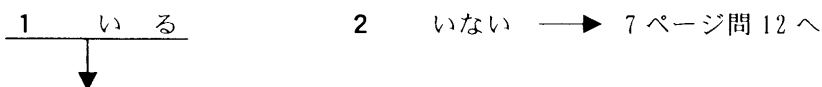
A 政治関係の団体や会	1	はい	2	いいえ
B 業界団体・同業者団体	1	はい	2	いいえ
C ボランティアのグループ	1	はい	2	いいえ
D 市民運動・消費者運動のグループ	1	はい	2	いいえ
E 宗教の団体や会	1	はい	2	いいえ
F スポーツ関係のグループやクラブ	1	はい	2	いいえ
G 趣味の会（コーラス・写真・山歩きなど）	1	はい	2	いいえ

↓
具体的に（ _____ ）

問 10 次の項目で、あなたが利用しているものすべてに○をしてください。

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1 電子メール（仕事） | 5 インターネットによるショッピング・バンキング |
| 2 電子メール（私用） | 6 インターネットによる株取引 |
| 3 パソコン（職場で利用） | 7 携帯電話またはPHS |
| 4 パソコン（自宅で利用） | 8 ファックス |

問 11(1) あなたには**重要なことを話したり、悩みを相談する方々**がいらっしゃいますか。



そのような方々を**思い浮かべてください**。以降の質問では、その方々のうち、4 人までについてうかがいます。**4 人に満たない場合は、思い浮かぶ方々の人数だけ、お答えください**。(かりに 1 人目の方から順に、A さん・B さん・C さん・D さんとします)

まず、その方々がどなたであるか、ご自分でわかるように、頭文字 (イニシャル) や愛称・ニックネームなどを、はさんである**ピンクのメモ用紙**に記入してください。

問 11(2) ここであげた方々は、お互いにお知り合いでしょうか。

A さんと B さん	→ 1 知り合い	2 知り合いではないと思う	3 わからない
A さんと C さん	→ 1 知り合い	2 知り合いではないと思う	3 わからない
A さんと D さん	→ 1 知り合い	2 知り合いではないと思う	3 わからない
B さんと C さん	→ 1 知り合い	2 知り合いではないと思う	3 わからない
B さんと D さん	→ 1 知り合い	2 知り合いではないと思う	3 わからない
C さんと D さん	→ 1 知り合い	2 知り合いではないと思う	3 わからない

問 11(3) それぞれの方は、あなたにとってどのような間柄ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	A さん	B さん	C さん	D さん
配偶者 (夫または妻)	1	1	1	1
親	2	2	2	2
子ども	3	3	3	3
兄弟姉妹	4	4	4	4
その他の家族・親せき	5	5	5	5
職場の上司または部下	6	6	6	6
職場の同僚 (上司・部下以外)	7	7	7	7
その他の仕事関係の人	8	8	8	8
同じ組織や団体に加入している人	9	9	9	9
近所の人	10	10	10	10
友人	11	11	11	11
その他	12	12	12	12

問 11(4) それぞれの方の性別はどちらですか。

	A さん	B さん	C さん	D さん
男性	1	1	1	1
女性	2	2	2	2

問 11(5) それぞれの方の年齢を、以下に記入してください。だいたい年齢で結構です。

A さん	B さん	C さん	D さん
<input type="text"/> 歳	<input type="text"/> 歳	<input type="text"/> 歳	<input type="text"/> 歳

問 11(6) それぞれの方と知り合ったのは、いまから何年前でしたか。だいたいの年数で結構です。

Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>
年前	年前	年前	年前

問 11(7) それぞれの方とあなたは、通常どのくらいの頻度で話をしますか(電話やメールも含みます)。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
	↓	↓	↓	↓
ほとんど毎日	1	1	1	1
少なくとも週一度	2	2	2	2
少なくとも月一度	3	3	3	3
月一度より少ない	4	4	4	4

問 11(8) それぞれの方が最後に通学した(または現在通学している)学校は、次のどれにあたりますか。専門学校・各種学校は含みません。なお、中退の場合も、その学校をお答えください。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
	↓	↓	↓	↓
中学校(旧制小学校)	1	1	1	1
高校(旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校)	2	2	2	2
短大・高専	3	3	3	3
大学(旧制高校・大学)	4	4	4	4
大学院	5	5	5	5
わからない	6	6	6	6

問 11(9) それぞれの方は、現在どのようなかたちでお仕事をしていますか。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
	↓	↓	↓	↓
経営者・役員	1	1	1	1
常時雇用の一般従事者(フルタイム)	2	2	2	2
臨時雇用・パート・アルバイト	3	3	3	3
自営業主・自由業者・家族従業員	4	4	4	4
学生	5	5	5	5
現在仕事をしていない	6	6	6	6
わからない	7	7	7	7

問 11(10) それぞれの方が現在行なっている仕事の内容は、以下のどれにあたりますか。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
	↓	↓	↓	↓
専門職(技術者・教員・弁護士など)	1	1	1	1
管理職(課長以上の管理職)	2	2	2	2
事務職(総務・企画事務など)	3	3	3	3
販売・サービス職(料理人・店員など)	4	4	4	4
保安職(警官・自衛官・守衛など)	5	5	5	5
生産工程・労務職(工場・建築作業員など)	6	6	6	6
農林漁業	7	7	7	7
現在仕事をしていない	8	8	8	8
わからない	9	9	9	9

問 11(11) それぞれの方は現在どの役職についていますか。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
経営者・役員	1	1	1	1
部長、部長相当職	2	2	2	2
課長、課長相当職	3	3	3	3
係長、係長相当職	4	4	4	4
役職なし	5	5	5	5
現在仕事をしていない	6	6	6	6
わからない	7	7	7	7

問 11(12) あなたは、それぞれの方とどのくらい親しいですか。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
とても親しい	1	1	1	1
親しい	2	2	2	2
あまり親しくない	3	3	3	3

問 11(13) それぞれの方とはこのところ政治家や選挙・政治についてどのくらい話題になりましたか。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
ずいぶん話題になった	1	1	1	1
ある程度話題になった	2	2	2	2
あまり話題にならなかった	3	3	3	3

問 11(14) それぞれの方は、国政選挙ではどの政党の候補者に投票されると思いますか。1つだけ○をつけてください。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
自民党	1	1	1	1
民主党	2	2	2	2
公明党	3	3	3	3
自由党	4	4	4	4
共産党	5	5	5	5
社民党	6	6	6	6
保守党	7	7	7	7
その他の政党	8	8	8	8
わからない	9	9	9	9

問 11(15) それぞれの方について、次のうちあてはまるものすべてに○をつけてください。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
共通の趣味や娯楽を持っている	1	1	1	1
最近6ヶ月間に、遊びや食事のために いっしょに出かけたことがある	2	2	2	2
まとまったお金を借りることができる	3	3	3	3

問 12(1) あなたには日本の首相や政治家のことについて話し合う方々がいらっしゃいますか。

1 いる 2 いない → 11 ページ問 13(1)へ

そのような方々を思い浮かべてください。問 11 であげていただいた方でも結構です。以降の質問では、その方々のうち、4 人までについてうかがいます。4 人に満たない場合は、思い浮かぶ方々の人数だけ、お答えください。(かりに 1 人目の方から順に、E さん・F さん・G さん・H さんとします)

まず、その方々がどなたであるか、ご自分でわかるように、頭文字 (イニシャル) や愛称・ニックネームなどを、はさんであるピンクのメモ用紙に記入してください。

問 12(2) ここであげた方々は、お互いにお知り合いでしょうか。

E さんと F さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
E さんと G さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
E さんと H さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
F さんと G さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
F さんと H さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
G さんと H さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない

問 12(3) E さん～H さんのうち、先の間 11 の A さん～D さんと同じ人はいますか。下記の _____ に A・B・C・D さんのうち当てはまる人を記入してください。

E さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～D さんとは違う人
F さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～D さんとは違う人
G さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～D さんとは違う人
H さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～D さんとは違う人

これからの問 12(4)から問 12(16)までの質問は、先の間 11 ですすでにお答えになった方については、再度お答え頂かなくても結構です。ただし、先に挙げられなかった方 (A さん～D さんとは違う人) については、必ず該当する欄にお答えください。

問 12(4) それぞれの方は、あなたにとってどのような間柄ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	E さん	F さん	G さん	H さん
配偶者 (夫または妻)	1	1	1	1
親	2	2	2	2
子ども	3	3	3	3
兄弟姉妹	4	4	4	4
その他の家族・親せき	5	5	5	5
職場の上司または部下	6	6	6	6
職場の同僚 (上司・部下以外)	7	7	7	7
その他の仕事関係の人	8	8	8	8
同じ組織や団体に加入している人	9	9	9	9
近所の人	10	10	10	10
友人	11	11	11	11
その他	12	12	12	12

問 12(5) それぞれの方の性別はどちらですか。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
男性	↓	↓	↓	↓
	1	1	1	1
女性	2	2	2	2

問 12(6) それぞれの方の年齢を、以下に記入してください。だいたいの年齢で結構です。

Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
歳	歳	歳	歳

問 12(7) それぞれの方と知り合ったのは、いまから何年前でしたか。だいたいの年数で結構です。

Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
年前	年前	年前	年前

問 12(8) それぞれの方とあなたは、通常どのくらいの頻度で話をしますか(電話やメールも含みます)。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
ほとんど毎日	↓	↓	↓	↓
	1	1	1	1
少なくとも週一度	2	2	2	2
少なくとも月一度	3	3	3	3
月一度より少ない	4	4	4	4

問 12(9) それぞれの方が最後に通学した(または現在通学している)学校は、次のどれにあたりますか。専門学校・各種学校は含みません。なお、中退の場合も、その学校をお答えください。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
中学校(旧制小学校)	↓	↓	↓	↓
	1	1	1	1
高校(旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校)	2	2	2	2
短大・高専	3	3	3	3
大学(旧制高校・大学)	4	4	4	4
大学院	5	5	5	5
わからない	6	6	6	6

問 12(10) それぞれの方は、現在どのようなかたちでお仕事をしていますか。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
経営者・役員	↓	↓	↓	↓
	1	1	1	1
常時雇用の一般従事者(フルタイム)	2	2	2	2
臨時雇用・パート・アルバイト	3	3	3	3
自営業主・自由業者・家族従業員	4	4	4	4
学生	5	5	5	5
現在仕事をしていない	6	6	6	6
わからない	7	7	7	7

問 12(11) それぞれの方が現在行なっている仕事の内容は、以下のどれにあたりますか。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
専門職（技術者・教員・弁護士など）	1	1	1	1
管理職（課長以上の管理職）	2	2	2	2
事務職（総務・企画事務など）	3	3	3	3
販売・サービス職（料理人・店員など）	4	4	4	4
保安職（警官・自衛官・守衛など）	5	5	5	5
生産工程・労務職（工場・建築作業員など）	6	6	6	6
農林漁業	7	7	7	7
現在仕事をしていない	8	8	8	8
わからない	9	9	9	9

問 12(12) それぞれの方は現在どの役職についていますか。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
経営者・役員	1	1	1	1
部長、部長相当職	2	2	2	2
課長、課長相当職	3	3	3	3
係長、係長相当職	4	4	4	4
役職なし	5	5	5	5
現在仕事をしていない	6	6	6	6
わからない	7	7	7	7

問 12(13) あなたは、それぞれの方とはどのくらい親しいですか。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
とても親しい	1	1	1	1
親しい	2	2	2	2
あまり親しくない	3	3	3	3

問 12(14) それぞれの方とはこのところ政治家や選挙・政治についてどのくらい話題になりましたか。

	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
ずいぶん話題になった	1	1	1	1
ある程度話題になった	2	2	2	2
あまり話題にならなかった	3	3	3	3

問 12(15) それぞれの方は、国政選挙ではどの政党の候補者に投票されると思いますか。1つだけ○をつけてください。

	Eさん ↓	Fさん ↓	Gさん ↓	Hさん ↓
自民党 →	1	1	1	1
民主党 →	2	2	2	2
公明党 →	3	3	3	3
自由党 →	4	4	4	4
共産党 →	5	5	5	5
社民党 →	6	6	6	6
保守党 →	7	7	7	7
その他の政党 →	8	8	8	8
わからない →	9	9	9	9

問 12(16) それぞれの方について、次のうちあてはまるものすべてに○をつけてください。

	Eさん ↓	Fさん ↓	Gさん ↓	Hさん ↓
共通の趣味や娯楽を持っている →	1	1	1	1
最近6ヶ月間に、遊びや食事のために いっしょに出かけたことがある →	2	2	2	2
まとまったお金を借りることができる →	3	3	3	3

現在仕事をしていない方は 15 ページの間 14 にすすんでください。

問 13(1) あなたには仕事について相談したり、仕事上のアドバイスをもらう方々がいらっしゃいますか。

1 いる 2 いない → 15 ページ問 14 へ

そのような方々を思い浮かべてください。問 11 や問 12 であげていただいた方でも結構です。以降の質問では、その方々のうち、4 人までについてうかがいます。4 人に満たない場合は、思い浮かぶ方々の人数だけ、お答えください。(かりに 1 人目の方から順に、I さん・J さん・K さん・L さんとします)まず、その方々がどなたであるか、ご自分でわかるように、頭文字(イニシャル)や愛称・ニックネームなどを、はさんであるピンクのメモ用紙に記入してください。

問 13(2) ここであげた方々は、お互いにお知り合いでしょうか。

I さんと J さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
I さんと K さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
I さんと L さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
J さんと K さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
J さんと L さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない
K さんと L さん	→ 1	知り合い	2	知り合いではないと思う	3	わからない

問 13(3) I さん～L さんのうち、先の間 11 の A さん～D さんや、問 12 の E さん～H さんと同じ人はいますか。下記の _____ に A・B・C・D・E・F・G・H さんのうち当てはまる人を記入してください。

I さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～H さんとは違う人
J さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～H さんとは違う人
K さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～H さんとは違う人
L さんは	→ 1	_____ さんと同じ人	2	A さん～H さんとは違う人

これからの問 13(4)から問 13(16)までの質問は、先の間 11・問 12 ですすでにお答えになった方については、再度お答え頂かなくても結構です。ただし、先に挙げられなかった方(A さん～D さんとは違う人)については、必ず該当する欄にお答えください。

問 13(4) それぞれの方は、あなたにとってどのような間柄ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	I さん	J さん	K さん	L さん
配偶者(夫または妻)	1	1	1	1
親	2	2	2	2
子ども	3	3	3	3
兄弟姉妹	4	4	4	4
その他の家族・親せき	5	5	5	5
職場の上司または部下	6	6	6	6
職場の同僚(上司・部下以外)	7	7	7	7
その他の仕事関係の人	8	8	8	8
同じ組織や団体に加入している人	9	9	9	9
近所の人	10	10	10	10
友人	11	11	11	11
その他	12	12	12	12

問 13(5) それぞれの方の性別はどちらですか。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
男性	1	1	1	1
女性	2	2	2	2

問 13(6) それぞれの方の年齢を、以下に記入してください。だいたい年齢で結構です。

Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
□ 歳	□ 歳	□ 歳	□ 歳

問 13(7) それぞれの方と知り合ったのは、いまから何年前でしたか。だいたい年数で結構です。

Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
□ 年前	□ 年前	□ 年前	□ 年前

問 13(8) それぞれの方とあなたは、通常どのくらいの頻度で話をしますか(電話やメールも含みます)。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
ほとんど毎日	1	1	1	1
少なくとも週一度	2	2	2	2
少なくとも月一度	3	3	3	3
月一度より少ない	4	4	4	4

問 13(9) それぞれの方が最後に通学した(または現在通学している)学校は、次のどれにあたりますか。専門学校・各種学校は含みません。なお、中退の場合も、その学校をお答えください。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
中学校(旧制小学校)	1	1	1	1
高校(旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校)	2	2	2	2
短大・高専	3	3	3	3
大学(旧制高校・大学)	4	4	4	4
大学院	5	5	5	5
わからない	6	6	6	6

問 13(10) それぞれの方は、現在どのようなかたちでお仕事をしていますか。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
経営者・役員	1	1	1	1
常時雇用の一般従事者(フルタイム)	2	2	2	2
臨時雇用・パート・アルバイト	3	3	3	3
自営業主・自由業者・家族従業員	4	4	4	4
学生	5	5	5	5
現在仕事をしていない	6	6	6	6
わからない	7	7	7	7

問 13(11) それぞれの方が現在行なっている仕事の内容は、以下のどれにあたりますか。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
専門職（技術者・教員・弁護士など）	1	1	1	1
管理職（課長以上の管理職）	2	2	2	2
事務職（総務・企画事務など）	3	3	3	3
販売・サービス職（料理人・店員など）	4	4	4	4
保安職（警官・自衛官・守衛など）	5	5	5	5
生産工程・労務職（工場・建築作業者など）	6	6	6	6
農林漁業	7	7	7	7
現在仕事をしていない	8	8	8	8
わからない	9	9	9	9

問 13(12) それぞれの方は現在どの役職についていますか。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
経営者・役員	1	1	1	1
部長、部長相当職	2	2	2	2
課長、課長相当職	3	3	3	3
係長、係長相当職	4	4	4	4
役職なし	5	5	5	5
現在仕事をしていない	6	6	6	6
わからない	7	7	7	7

問 13(13) あなたは、それぞれの方とはどのくらい親しいですか。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
とても親しい	1	1	1	1
親しい	2	2	2	2
あまり親しくない	3	3	3	3

問 13(14) それぞれの方とはこのところ政治家や選挙・政治についてどのくらい話題になりましたか。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
ずいぶん話題になった	1	1	1	1
ある程度話題になった	2	2	2	2
あまり話題にならなかった	3	3	3	3

問 13(15) それぞれの方は、国政選挙ではどの政党の候補者に投票されると思いますか。1つだけ○をつけてください。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
自民党	1	1	1	1
民主党	2	2	2	2
公明党	3	3	3	3
自由党	4	4	4	4
共産党	5	5	5	5
社民党	6	6	6	6
保守党	7	7	7	7
その他の政党	8	8	8	8
わからない	9	9	9	9

問 13(16) それぞれの方について、次のうちあてはまるものすべてに○をつけてください。

	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん
共通の趣味や娯楽を持っている	1	1	1	1
最近6ヶ月間に、遊びや食事のために いっしょに出かけたことがある	2	2	2	2
まとまったお金を借りることができる	3	3	3	3

ここからは、すべての方にお聞きします。

問 14 選挙のある／なしに関わらず、いつも政治に関心を持っている人もいますし、あまり関心を持たない人もいます、あなたは政治上の出来事に、どれくらい注意を払っていますか。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 つねに注意をはらっている | 3 たまに注意をはらっている |
| 2 ときどき注意をはらっている | 4 ほとんど注意をはらっていない |

問 15 あなたは、小泉内閣のこれまでの実績についてどう思われますか。

- | | | | | |
|-------|------|-----------|------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に良い | まあ良い | どちらともいえない | やや悪い | 非常に悪い |

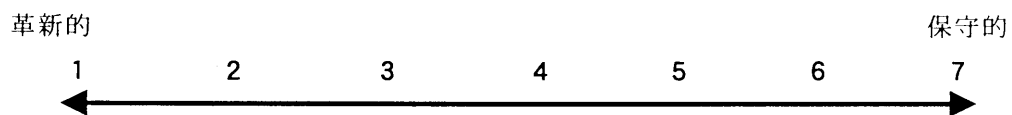
問 16 今の日本の景気はどのような状態だと思えますか。

- | | | | | |
|-------|------|-------|------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| かなり良い | やや良い | 変わらない | やや悪い | かなり悪い |

問 17 では、これから日本の景気はどうなっていくと思えますか。

- | | | | | |
|---------|--------|-------|--------|---------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| かなり良くなる | やや良くなる | 変わらない | やや悪くなる | かなり悪くなる |

問 18 政治的な考え方を、革新的から保守的までの7段階にわけるとしたら、あなたはどれにあてはまりますか。



問 19 次に国民と政治とのかかわりについての意見があげてあります。以下にあげるそれぞれについて、あなたのお気持ちに近いものをお答えください。

- | | | | | | | |
|---|--|---|----|-------|----|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| | そう思う | | まあ | あまりそう | そう | |
| | ↓ | | ↓ | ↓ | ↓ | |
| A | 政党があるからこそ有権者の声が政治に反映される | → | 1 | 2 | 3 | 4 |
| B | 選挙があるからこそ有権者の声が政治に反映される | → | 1 | 2 | 3 | 4 |
| C | 国会があるからこそ有権者の声が政治に反映される | → | 1 | 2 | 3 | 4 |
| D | 政府のすることを左右する力は、自分にはない | → | 1 | 2 | 3 | 4 |
| E | 選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票してもしなくても変わらない | → | 1 | 2 | 3 | 4 |
| F | 政治や政府はあまりに複雑で、何をやっているのか理解できないことがある | → | 1 | 2 | 3 | 4 |

※質問はこれで終わりです。調査票の記入が終わった時間をお書き下さい。

1. 午前 2. 午後	時	分
-------------	---	---

※（調査票の記入が終わった時間をお書きになった後で）

この調査票のなかで、答えにくかった、分かりづらかった質問や表現がありましたら、お気づきになったことを下の枠内にご自由にお書き下さい。よろしく申し上げます。

ご協力ありがとうございました。担当の調査員にお渡してください。

メモ用紙

〔このメモ用紙は回収しません〕

- この用紙は、問 11 から問 13 の質問で、あなたとお付き合いのある方々のイニシャルや愛称・ニックネームなどをご記入していただくためのものです。
- イニシャルや愛称・ニックネームは、お付き合いのある方々がどなたであるかを、あなた自身がわかるようなものであれば何でも結構です。
- 各質問では、それぞれの方についての事柄をうかがいます。必要に応じて、このメモ用紙をご覧になりながら、ご回答いただきますようお願いいたします。
- この用紙にお書きになったイニシャルなどは、調査の集計や分析には使いませんので、調査が終わりましたら、この用紙をご自由に処分してください。（調査票本体は回収いたします）

問 11 重要なことを話したり、悩みを相談する方々

Aさん

Bさん

Cさん

Dさん

問 12 政治や選挙のことについて話しあう方々

Eさん

Fさん

Gさん

Hさん

問 13 仕事について相談したり、仕事上のアドバイスをもらう方々

Iさん

Jさん

Kさん

Lさん

学術調査への御協力のお願い

謹 啓

仲秋の候、皆様方におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび、私どもは文部科学省から科学研究費補助金を受けて「職業と生活意識に関する調査」を実施することになりました。この調査は、現代の社会や人びとの考え方について、さまざまな分野から研究するための学術調査です。

調査の対象としているのは、東京都内にお住まいの男女の方々です。あなたご自身も含めてこの度調査への御協力をお願いする方々は、すべて無作為に選ばせていただきました。この調査は純粋に学術研究のために行うもので、ご回答は極秘情報として管理し、結果はすべて統計的に処理しますので、個人のお名前が出たりしてご迷惑をおかけすることは決してありません。ご安心のうえ、どうか率直にありのままをお答え下さい。

なお、こうした社会調査の集計結果は、調査に御協力くださった方々にきちんとお知らせするのが私どもの責務であると考えております。ご希望の方には、基礎集計が終わりました段階で調査レポートを送付させていただきますので、調査員にお申し出下さい。社会調査は、学者や研究者だけのものではなく、皆様の御協力と信頼性のあるご回答にもとづく社会全体の共有財産です。お忙しいところお手数をおかけして恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ぜひとも御協力をお願いいたします。

謹 白

「職業と生活意識に関する調査」調査研究代表者
東京都立大学人文学部社会学科
助教授 中尾啓子
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大学人文学部社会学科中尾研究室
TEL0426-77-2055

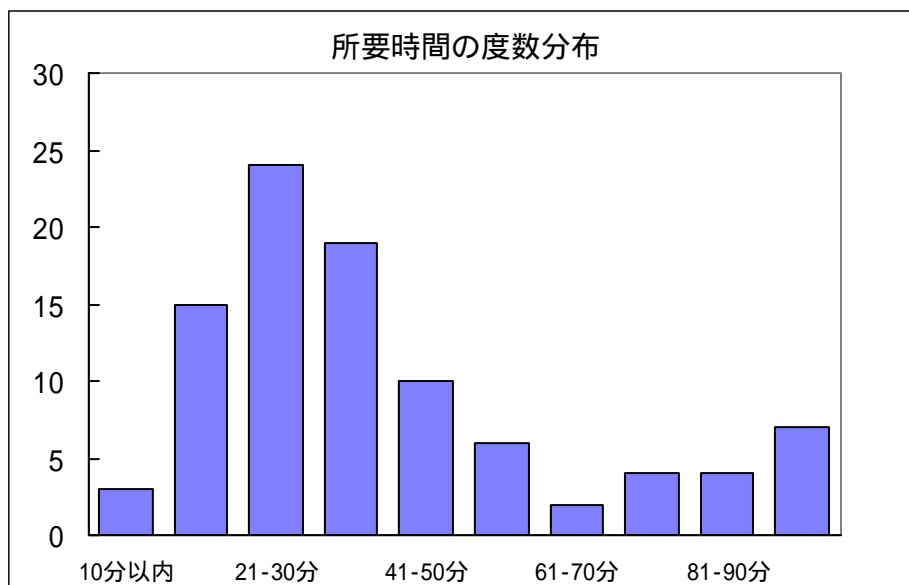
Appendix 2: 調査対象者からのコメント

以下には、自由回答形式で指摘された調査票についての問題点を提示する。(100人中18人が記入)

性別	年齢	コメント
女性	50	問13わからない
男性	48	政治的な考え方は親しい人でもわかりにくい
男性	71	政治に対して 交際について高齢者が多いので年齢で困った
男性	42	付き合いのある4人を思い浮かべながらやるのが大変だった
女性	47	問2に月に2~3回という項目が欲しかった 問7のように賛成、反対のどちらかに偏った回答をしなければいけないものが多く困った
男性	66	問19の質問の選択肢が細かすぎる
女性	60	問11(2)~(6)までは答えにくくわかりずらかった
女性	87	質問内容は高齢者以外のほうが当てはまりやすいのでは A~Lさんへの回答の場合、分けないで記入できる方が理解しやすい
女性	40	政治の話をする人は漠然としていて程度がわからない
男性	44	問11~13で4人に満たない場合の相互関係について回答に迷った
男性	63	全体的にわかりにくい表現がある
男性	70	問11~13の役職についてははっきりとわからない 問12(3)、13(3)は関連を知られてしまうようで答えにくい
女性	46	問12で4人までというのがわかりづらい 同じ人がいますかというところは良く読まないとわかりづらい
女性	73	政治のことはよくわからない
女性	54	問23は色々な角度で考えるとすべてが当てはまるので困った
女性	82	80歳過ぎの老人に不必要、不明な面が多分にある
男性	47	面倒くさかった
女性	79	孫との話も入れていいのではないか(恐らく「その他親戚」を見落としていると思われる)

Appendix 3: 所要時間について

今回の予備調査では、調査票記入開始時刻と終了時刻を記入してもらった。参考として集計したものを以下に示すが、留置調査であることから、時間のある時に何回にも分けて回答したとコメントを記入した対象者も多数おり、必ずしも実際に必要とされる所要時間の推定にはならない。



平均値は 45.9 分であるが、20 - 30 分で終了した回答者が一番多いことが示されている。また、所要時間に男女差はなく、年齢については、高齢者の方が長い時間をかけて回答していることがわかった。

年代	度数	平均値	標準偏差
40代	20	25.05	10.01
50代	19	38.05	18.39
60代	18	43.06	20.08
70代	18	55.50	35.89
80代	19	69.21	55.78

Appendix 4: 回収状況について

今回の予備調査では、調査員が次のような手順で調査を行った。まず、訪問先において、性別・年齢に該当する人がその世帯にどうかの確認、そして該当者がいた場合には、その該当者に調査協力を依頼、さらに調査票の説明をした後に、留置調査票を置いていき、指定された日時に回収に行く。約束した回収時に不在のときは、改めて回収に行く（郵送返送はなし）。調査員には、訪問した際に、「留守」「該当者なし」「訪問先の世帯に該当者がいるが、調査拒否」というように、回収状況を記録してもらうように指示した。

このような調査から、JGSSにおける回収状況を推測するのは不可能であるが、参考になり得る情報は（１）調査員が記入した回収状況記録、（２）置いてきた調査票の数と手元に残った調査票の数であろう。

（１） 調査員が記入した回収状況記録

まず、調査員が記入した「コールシート」の集計によると、回収率は約 30%であった。15.4%から 43.5%と、調査員による分散が大きかったため、記入された「コールシート」をみると、その信憑性を疑うべき事実がみられた。調査員の説明会で、各調査員は、「コールシート」を持参して、一軒ごとの状況をその都度記入するように指示されていた。「コールシート」は、上述の回収状況を「正」の文字として数える様式に作成されていたが、行書体で書かれたように記入された「正」文字は、調査を実施しながら一軒ごとに記入したのではなく、調査終了後にまとめて記入されたことを裏付ける。この件については、調査実施会社から調査員に問いただしてもらったところ、その事実が認められた。

（２） 置いてきた調査票の数と手元に残った調査票の数

調査員は未使用の調査票を返却することから、実際に置いてきた調査票の数と手元に残った調査票の数は把握できる。これによると、留置として置いてきた調査票はすべて回収されていた。つまり、調査票の説明後、最終的に調査協力を合意してくれた対象者は、すべて回答し、返却したということを意味する（白紙で回収された調査票はなし）。今回の予備調査は、ネットワーク調査票の可能性を把握する目的で行われたため、JGSSの全国調査における回収率を予測することを目的とした設計はされていない。母集団（全国と東京都 23 区）、対象者年齢層、面接調査を伴った調査であるかどうか、謝礼の金額などについて JGSS と予備調査では異なるため、回収率を推定するのは無理だと判断したためである。予備調査では、その目的に沿った割り当て標本抽出法を用いたが、サンプリングの方法、さらには割り当て標本サンプリング方法であることを前提とした調査員の姿勢なども考慮にいれて回収状況を解釈しなければならないだろう。それでも、調査員の回収状況記入にミスがあったことは非常に残念であり、調査員への指示が徹底していなかったこと

は反省すべき点である。

しかし、実際に置いてきた調査票の回収率が高かったことは、留置調査として施行するにあたっては有効な情報となるだろう。これは、一旦調査に協力してくれると意志表示してくれた対象者からは回収される確率が高いということである。そして、回答途中で放棄したケースが少ないということは、ネットワーク質問自体が回収率の低下につながるわけではないことを示唆する。一度対象者の手元に渡れば回収できる確率が高いということは、通常の留置調査と大きく異なる結果ではないだろう。JGSS モジュールとして実施する際には、まず面接調査を先に行い、留置票を置いてくるという形式を採用することが望ましい。

以下には、予備調査実施後調査員のヒアリングの際に、指摘された調査員のコメントを提示する。

拒否状況に関して

1. アンケートそのものに対する拒否(一般拒否)

～アンケート依頼時点では、通常の調査と同様ですので、一般的な傾向と変わりありません

年代 - 50才以上は拒否が多くなります。

アンケート調査に対する理解をされにくいこと、高齢になるほど「見知らぬ他人」の接触を疎ましく思います。

性別 - 男性の方が拒否が多くなります。

一般的に有職者が多いため、時間がとれないことが主たる理由です。

2. アンケート内容に対する拒否

政治的な意見を求められる部分を見てから、の拒否が若干ありました。

あるいは、高齢で友人関係が希薄ですので、「書きたくない」という拒否が数件ありました。

3. 説明時の拒否

70代、80代に多く出現しました。

「単純に面倒そう」

「口頭ならば答えられる」が自分では書けない

「わからないから」

「老眼で見えない」

訪問曜日、時間については、40～50代の男性は土日、その他は平日、基本的には昼間の訪問が多くなりました。回収は対象者次第ですので、特に傾向はありません。

ただし、これは地域の傾向がありますので、「一般的に」という程度です。

その他

70代以上に、この内容の「留置調査」は困難であると思います。

中盤の「友達関係」を挙げるときに「話す内容」から入るのは答えにくいと思います。

「話す相手」から入って「内容」へと展開した方がスムーズでは、と思います。

A～Dの後の、E～H、I～Kの「同一人物」だった場合の書き方が意外にわかりにくかったようです。これは年代に限らず記入しにくかったようです。